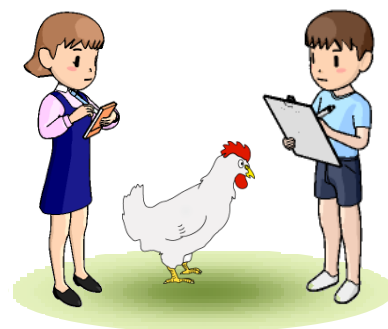


★日頃の管理（衛生対策）

◆よく観察しましょう

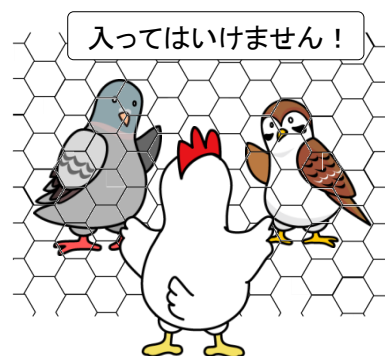
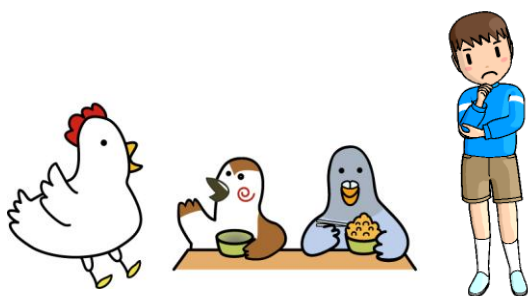
日頃から鶏等の様子を毎日観察・記録し、普段と様子が違ったら（うずくまって元気がない、一度に多く死ぬ、連続して死ぬなど）最寄りの獣医師や、家畜保健衛生所に相談してください。



◆野鳥等が飼育舎内に入らないようにしましょう

野鳥や野生動物が病気を持ち込むことがあります。野鳥等が飼育舎に入らないよう、飼育舎に防鳥ネットや金網を張り、隙間や破れがないかを点検してください。こぼれたエサは早めに片づけてください。野鳥等との接触を避けるため鶏等を外に出さないようにしてください。

※防鳥ネットや金網は、2 cm角以下の網目のものが推奨されています。網目の大きいものは、二重にすることで目が小さくなります。また、破損が見つかったら、直ちに補修しましょう。



◆飼育舎に入る時は気を付けましょう

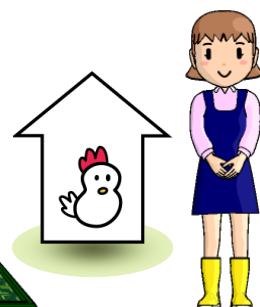
靴の裏にウイルスや細菌（病気の原因）が付いていると、飼育舎の中にそれを持ち込んでしまいます。

中に入る時は、靴の泥をよく落としてから消毒するか、専用の長靴にはき替えるようにしてください。

飼育舎の中を掃除する時は、長靴、マスク、防水手袋等を着用してください（「消毒液をまきましょう」を参照してください）。



消毒をする



専用長靴を履く

◆鶏等の世話をした後は手洗い・うがいをしましょう

飼育舎に入って、鶏等の世話や清掃等をした後は手洗い・うがいをしてください。



- ▼飼っている鶏等が病気にならなければ、人にもうつりません。鶏等の健康のために日頃からよく面倒を見て、衛生的に飼いましょう。
- ▼野鳥（糞などを含む）と接触する機会がなければ、ウイルス等（病気の原因）を持った野鳥が日本に来て、その野鳥から飼っている鶏等に病気がうつることはありません。更に、鶏等からインフルエンザが人に感染することは、国内ではほとんどないと考えられます。
- ▼鶏等と触れあった後は、手洗い・うがいをしっかりと、鶏から人、人から鶏へ病気がうつらないよう注意して鶏等を可愛がりましょう。



★飼育舎等の消毒（液剤編）

鶏等の健康を保つためには、飼育舎の定期的な清掃と消毒を行うことが重要です。消毒は、飼育舎の掃除をしてゴミや糞などを取り除いてから行ってください。

◆消毒薬の種類

〈代表的なもの〉

- ◇消石灰（粉剤・粒剤）：薬剤ではありませんが、消毒作用があります。
- ◇逆性石けん液（液剤）
- ◇塩素系消毒液（液剤）

◆市販されている消毒薬の一例

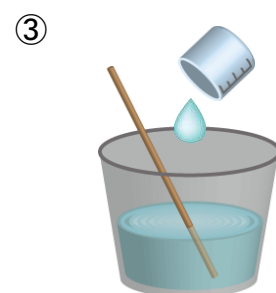
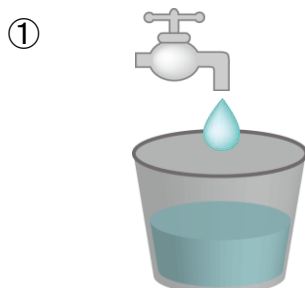
- ◇消石灰（園芸用で可。運動場のライン引き用は効果がありません）
- ◇逆性石けん液（オスバン・パンパックス・アストップ等）
- ◇塩素系消毒液（ピューラックス・塩素系漂白剤・次亜塩素酸ソーダ等）



◆消毒液（液剤）の作り方（製品によって使用濃度が違います）

例：500倍に薄めた消毒薬を10リットル作る場合

- ①プラスチック製のバケツ等を準備し、消毒薬を薄める水10リットルを入れます。
- ②必要な量の消毒薬（20ミリリットル）を計量カップなどで量ります。
- ③②で測った消毒薬を①で用意した容器の水に入れ、よくかき混ぜます（手指でかき混ぜないこと）。



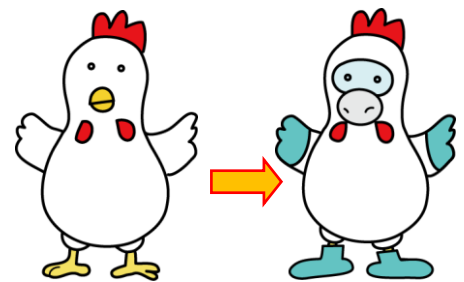
消毒液の作り方（必要な水と消毒薬の量）

| 作製する消毒液の濃度 | 消毒液の量 (リットル：L) | 水の量 (リットル：L) | 消毒薬（原液）の量 (ミリリットル：ml) |
|------------|-------------------|-----------------|--------------------------|
| 1,000倍 | 10 | 10 | 10 |
| 1,000倍 | 5 | 5 | 5 |
| 1,000倍 | 1 | 1 | 1 |
| 500倍 | 10 | 10 | 20 |
| 500倍 | 5 | 5 | 10 |
| 500倍 | 1 | 1 | 2 |

※温度（気温や水温）が高い方が、消毒効果が強まります。

◆消毒液をまきましょう(塩素系消毒液は噴霧使用不可です)

- 消毒液をまく時は、防水手袋・マスク・ゴーグル・長靴を付けて行ってください。
- 消毒するものの大きさ・面積・場所等によって、消毒液を入れる器具を選択して消毒液を十分にふりかけます。
- 農作物、皮膚や目、おもちゃ等にかからないように注意してください。使用後は器具をよく水洗いしてください。



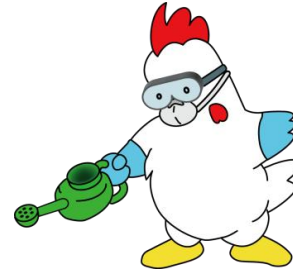
器具使用例



噴霧器



ハンディスプレー



ジョウロ

◆注意

- 消毒液は使用するたびに薄めてください。
- 使用する容器・器具はあらかじめ十分に水洗いしておいてください。
- 2種類以上の消毒液を混ぜて使用しないでください（例外あり）。
- 残った消毒液は効果の低下や誤飲・誤用の危険がありますので使い切るか、残った場合は廃棄しましょう。廃棄する際は、説明書をよく読んでください。
- 容器に配付（添付）してある説明書（用法・用量・注意事項等）をよく読んで正しく使用してください。

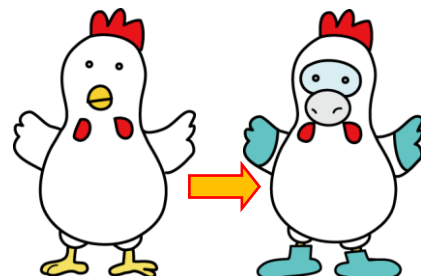


★飼育舎等の消毒（消石灰編）

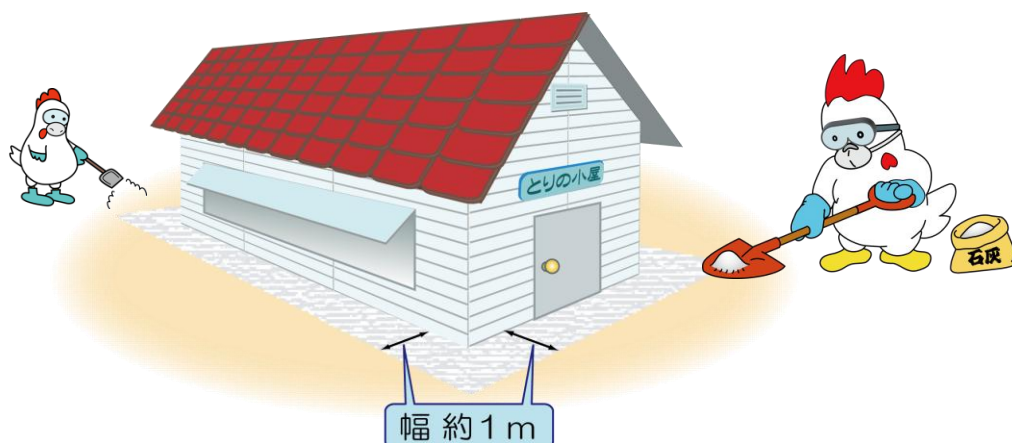
鶏等の健康を保つためには、飼育舎の定期的な清掃と消毒を行うことが重要です。消毒は、飼育舎の掃除をしてゴミや糞などを取り除いてから行ってください。

◆消石灰をまきましょう

- 消毒の対象が、土等で液体がしみこみやすい場所や広い場合は、消石灰を使った方が効果があり、経済的です。
- 消石灰をまく時は、防水手袋・マスク・ゴーグル・長靴を付けて行ってください（粉剤は、粉が舞い上がりやすいです）。
- 飼育舎周囲にまく時は、飼育舎から約1mの幅に、土の表面が白く覆われる程度を目安に（ $0.5\sim 1.0\text{kg}/\text{m}^2$ ）散布してください（下写真参照）。
- 消石灰をまく時は、雨天以外の風のない日が望ましいですが、多少の風がある場合は風上から散布してください。



石灰散布目安（写真は $0.5\text{kg}/\text{m}^2$ ）



不明な点は、お気軽に御相談下さい

北部家畜保健衛生所（嘉麻市漆生587-8）

TEL 0948（42）0214